

長泉さわやかハイク(裾野麗峰山の会、A/B合同)四尾連湖・蛾ヶ岳山行報告

しびれこ ひるがたけ

(報告 : 佐々木和雄、写真提供 : 後藤隆徳 ・ 鈴木恵美子、国土地理院地図提供 : 村山忠彦)

1. 日時 2011. 10. 30 (日) 曇り時々晴れ
2. 山域 四尾連湖・蛾ヶ岳 (1279m)
3. 標高差 四尾連湖約900m～蛾ヶ岳1279m＝約379m
4. コース 四尾連湖(周回)～大畠山コル～蛾ヶ岳～大畠山コル～四尾連湖
5. 参加者 L:後藤隆徳、SL:井上弘二郎、村山忠彦、トン汁会計:天野和子
石和加代子、河野光江、峰田光江、鈴木恵美子、津田てる子、小松眞明、村山 章、
滝鼻啓之、 渡辺万喜子、浜道久美子、松岡直紀、松岡定子、佐々木和雄 (敬称略)
6. 記録

10月30日、久しぶりのバスハイク、事故、怪我、事件を起さないよう、楽しく行きましょう。



天気予報では曇り、所により午後遅く雨、何とか天気は持ちそうで、まあ～、まあ～のコンディションでした。秋晴れのもと、紅葉した山々、霊峰富士の景観を楽しみにしていたので、少し興ざめの感は否めませんでした。

予定通り朝8時頃に四尾連湖の駐車場に到着。バスの窓ガラスは結露結露していましたので、寒いのかと思いましたが、外は意外と暑く感じました。変な陽気でした。今日、富士山見えるかな～。

朝が早かったせいかバスの中でひと眠りしたわりには体調が今一でした。

バスを降り、ラジオ体操、サブリーダーの井上さんの掛け声で全員、体をほぐしました。近くにいた2、3名の他の登山チームの人達も、我々につられて、同じ動き体操を始めていました。なにか微笑ましく思い、彼らを見ていると、我々の視線に気づき苦笑いをしていました。

面白いね・・・

体操のおかげで、体も目覚め、体が山登りモードに変身したように感じました。

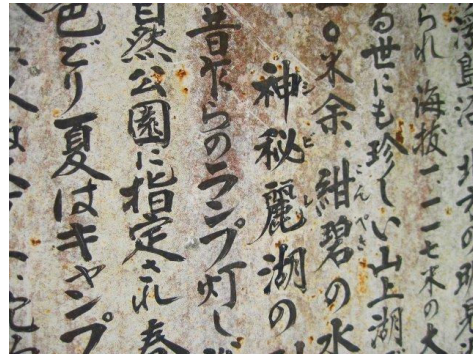


富士八湖(初めて聞いた言葉)の一つに数えられている、四尾連湖、何か神秘的な感じのする湖です。湖ってうか、池・・・沼・・・、沼じゃないな、だけど湖ってイメージじゃないよな。何か、魔物のようなものが潜んでいるような、秘密が隠されているように感じました。(この後、頂上からこの湖が見えたけど、本当に神秘的でした)

湖面は鏡のように波ひとつなく、その真っ平らな湖面に山の峰、紅葉した木々がアクセントになった碧い山肌をシンメトリーに映つし出してまたとないシャッターチャンスと思い、カメラを出そうとした時、カメラを家に忘れて来たことに気が付きました。最近ものをなくしたり、が多くなり、気を付けないと痛感しました。

トン汁のサトイモに、昨晚気をとられたせいもあるかな。





ご参考：案内板に四尾蓮湖を“神秘麗湖”とも説明してありました。



湖畔では昨日からキャンプで遊びに来ている家族ずれやグループの方がアウトドアライフを楽しんでいました。湖畔を15分程でほぼ一周した。

8：45 さ～、ここから出発、大島山コル（登り口の分岐点）を經由し蛾ヶ岳までは約2時間の予定で～す。

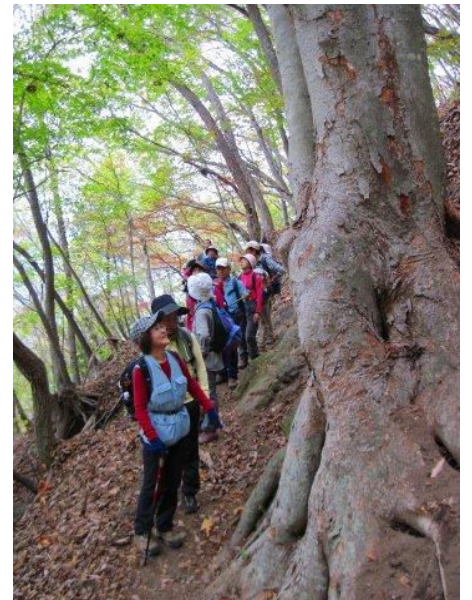


出発地点のすぐ上に石碑があったので、石和さんが早速興味深く、その岩に刻まれた詩らしきものを読みはじめました。

崩した書体のうえ、文字が太文字なので非常に読みにくく、難儀していると後藤さんも一緒に読み始め、何とか内容を理解することができました。

後でインターネットで調べたら、これは野沢一（のざわ はじめ）の文学碑でした。野沢

一は昭和初期の詩人で四尾蓮湖畔に独居し詩作に励んだと、ありました。



なだらかなで歩きやすい登山道を和気あいあいに歩いていきます。これぞ”さわやかハイキング、途中こんな大きな木もありましたね。